

少年少女世界伝記全集

ディズニー

岡本 文良



主婦の友社版

少年少女世界伝記全集 26

ディズニー

	岡 本 文 良
	ディズニー 主婦の友社 昭和52年(1977) 176p 22cm 〔分類〕909

筆 者 岡 本 文 良
発 行 者 石 川 晴 彦
印刷・製本 凸版印刷株式会社
定 価 480円 昭和52.11.30発行
発 行 所 株式会社 主婦の友社
東京都千代田区神田駿河台1-6
郵便番号 101 振替 東京2-180番
電話 東京(03)294-1111(大代表)

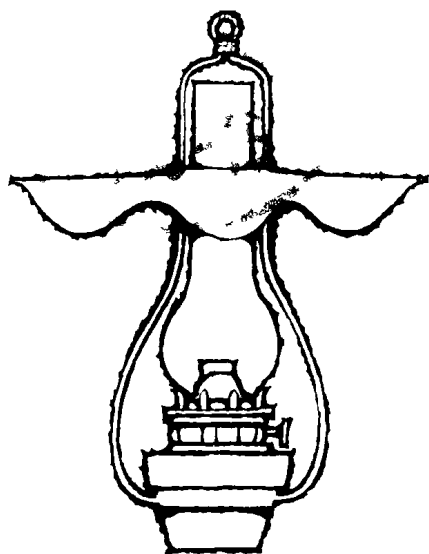
©1977 落丁・乱丁はおとりかえします。 著者との話しあいにより検印廃止。

少年少女世界伝記全集

ディズニー

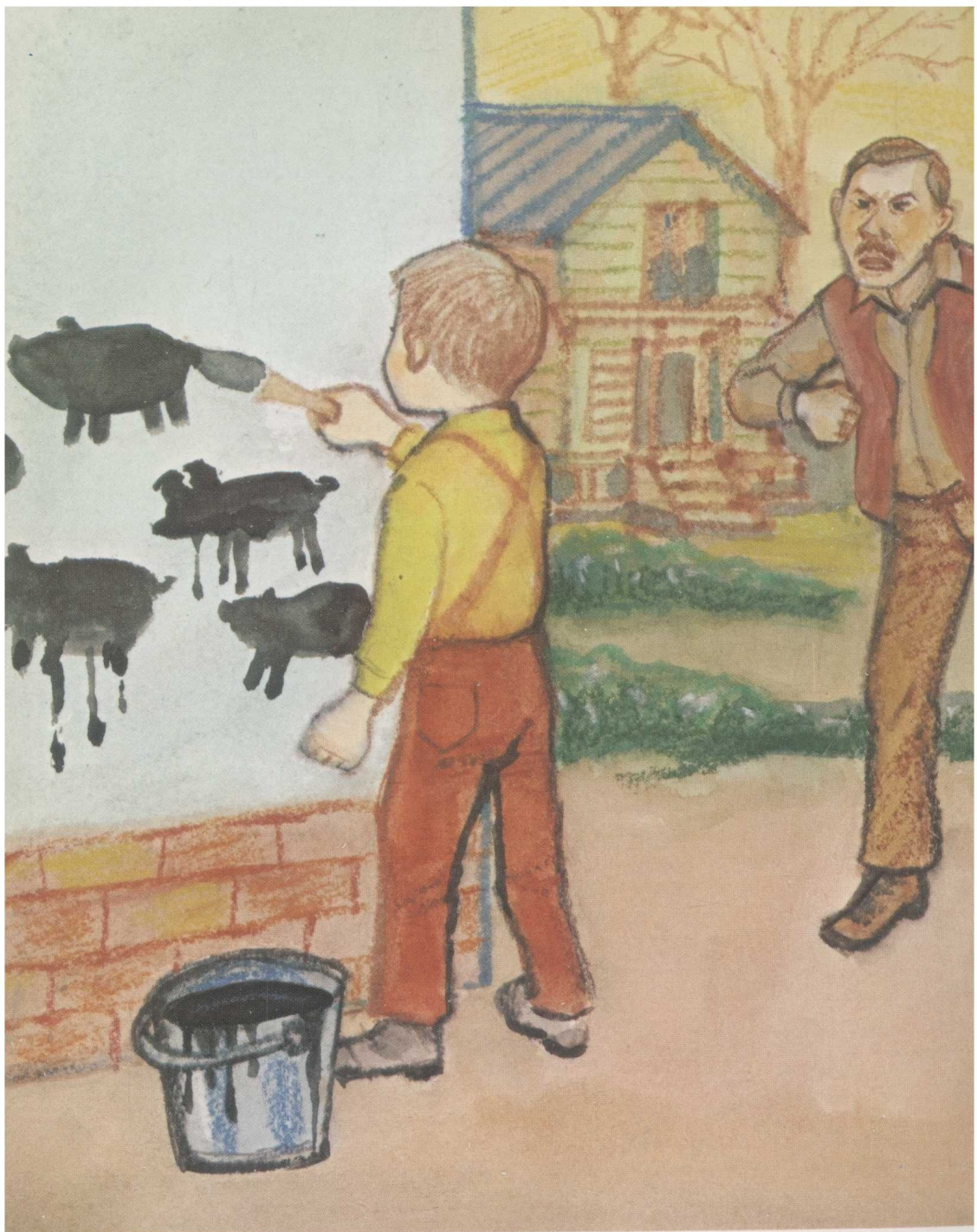
文・岡本文良

絵・川本哲夫

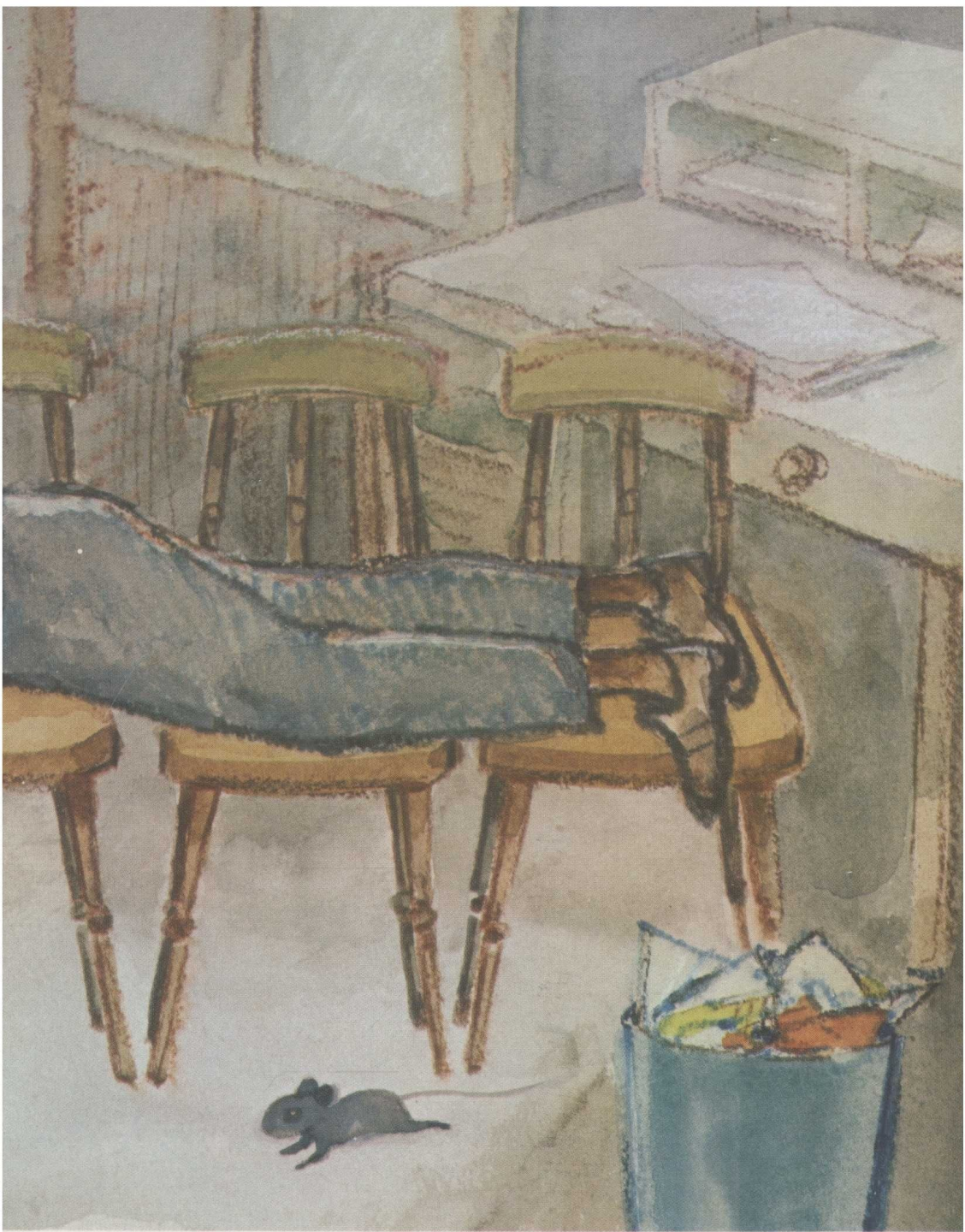


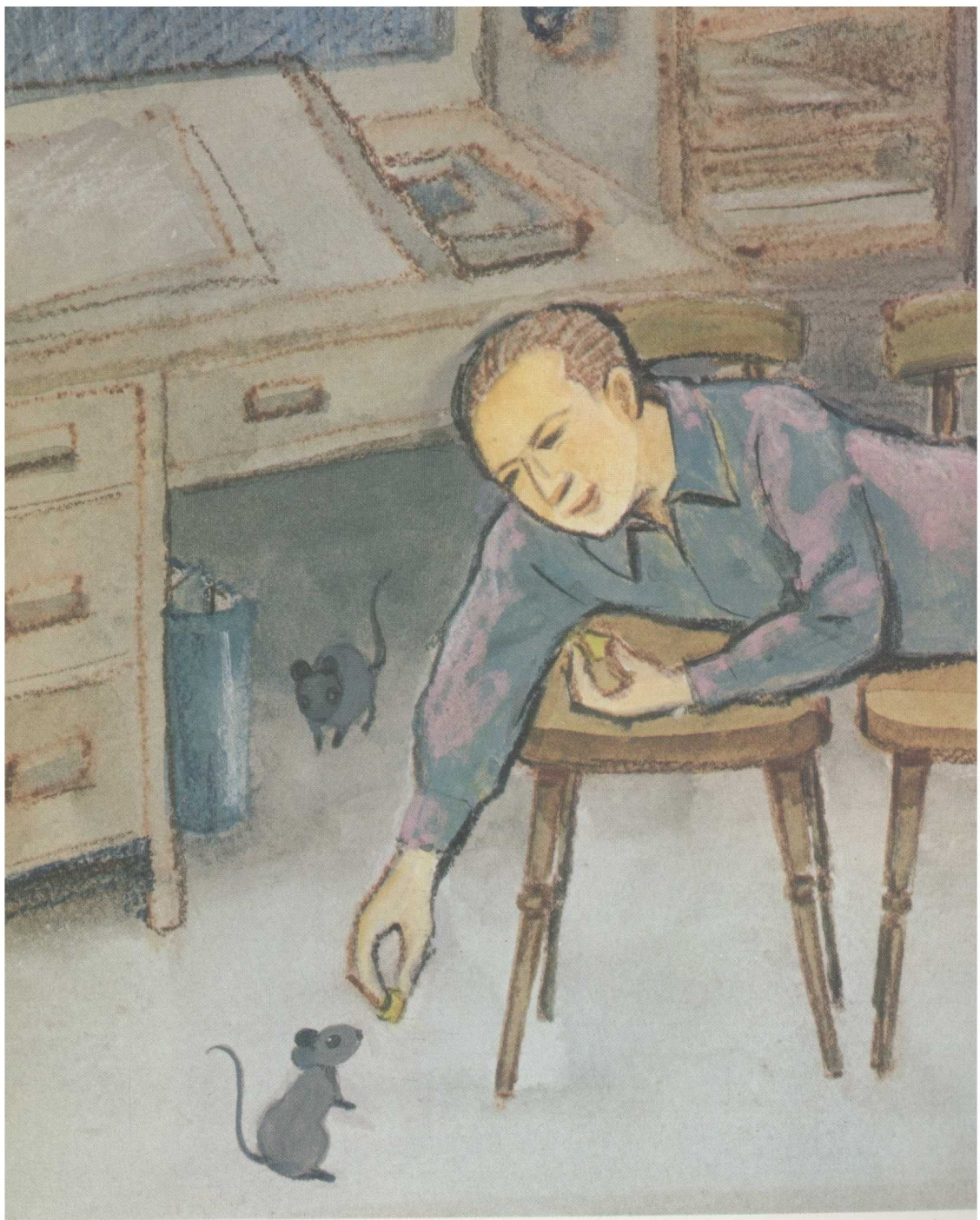
主婦の友社版

デザイン 駒宮録郎
装丁

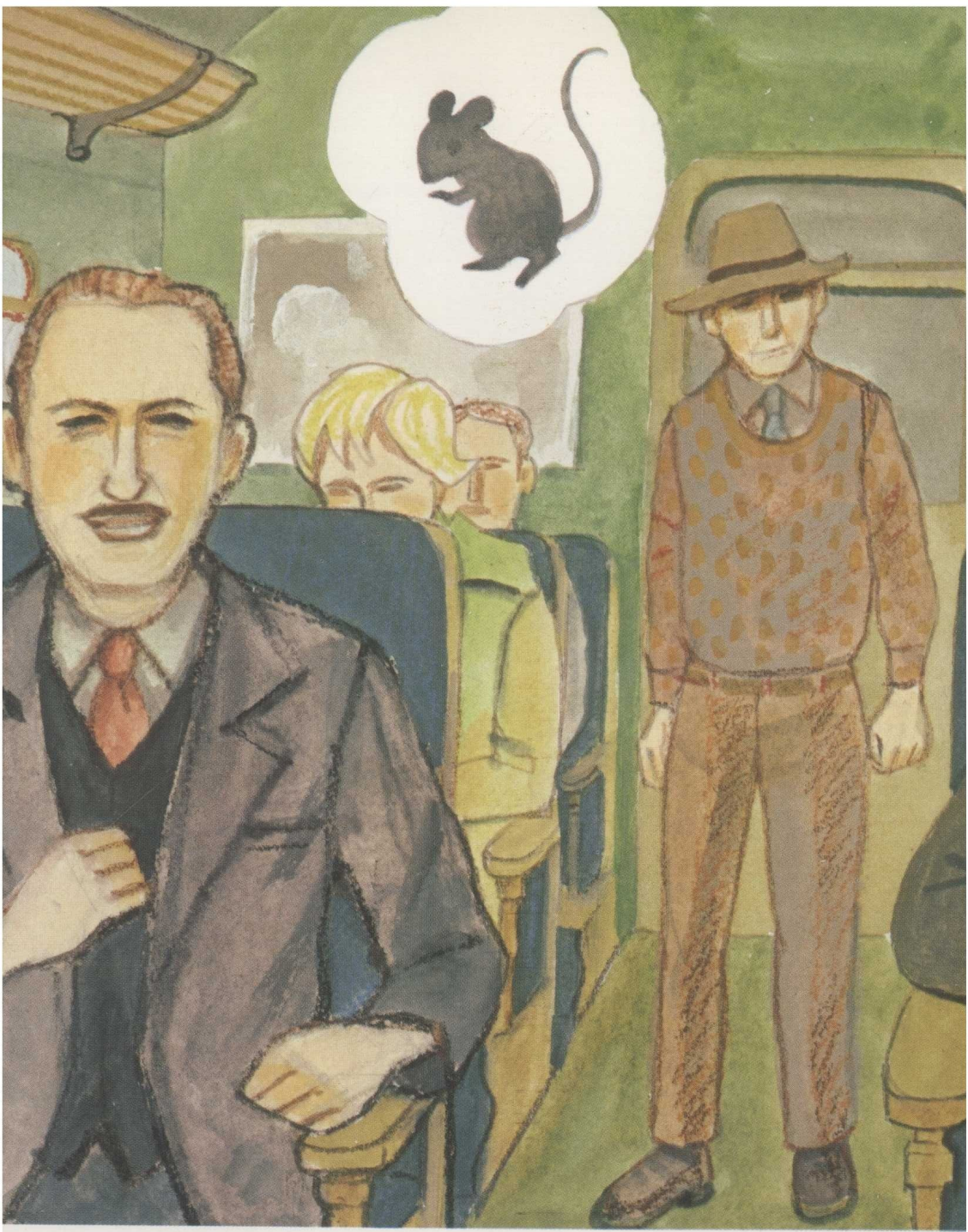


「こらっ、ウォルト、パパがせっかくきれいにぬったのに、なんてことをするんだ。」とつぜんパパのかみなりが

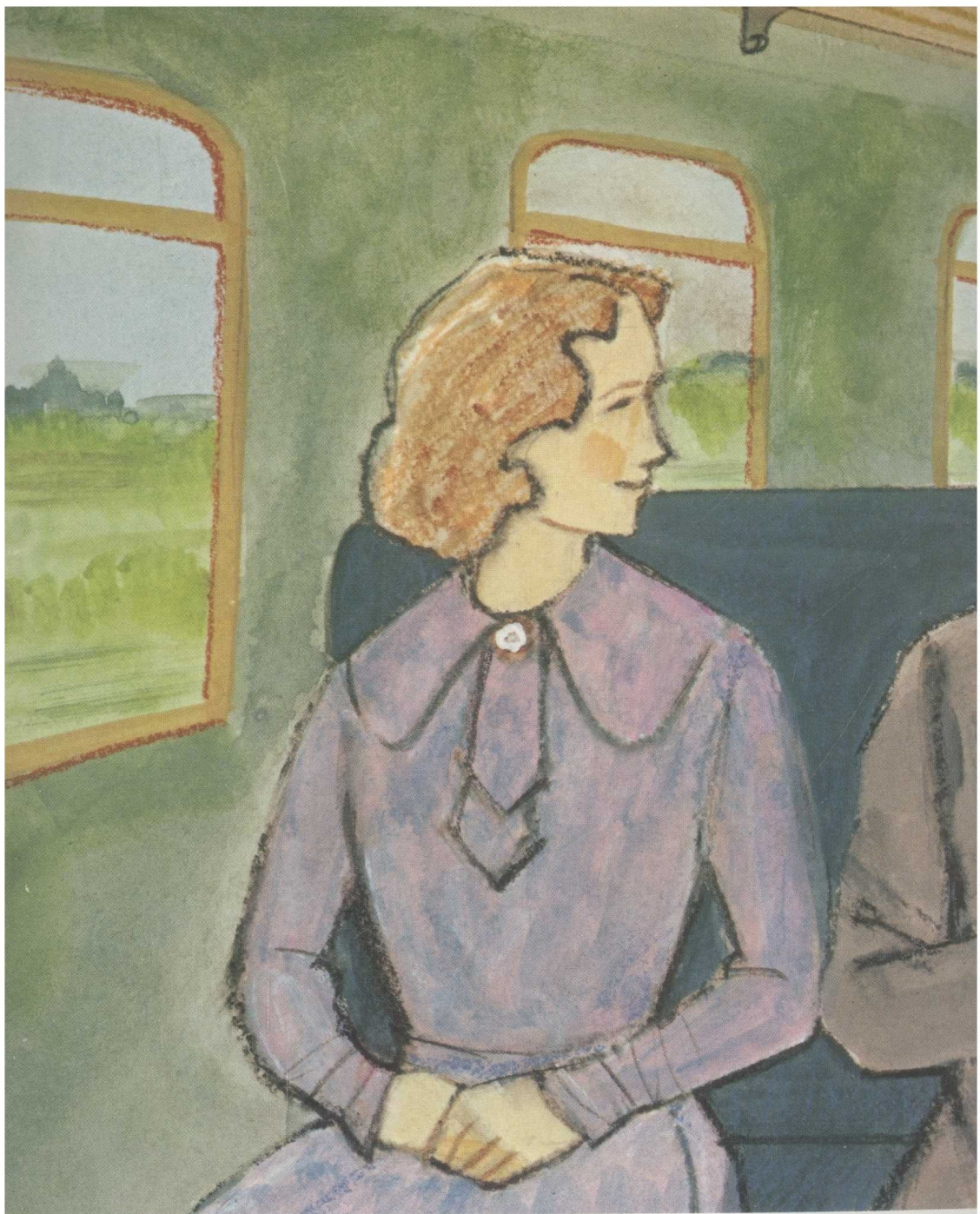




パンのかけらを、そっとさし出すとねずみが一ぴき近づいてきてそれを食べました。ウォルトはそれをつかまえると、かごに入れて、机の上でかうことにしました。

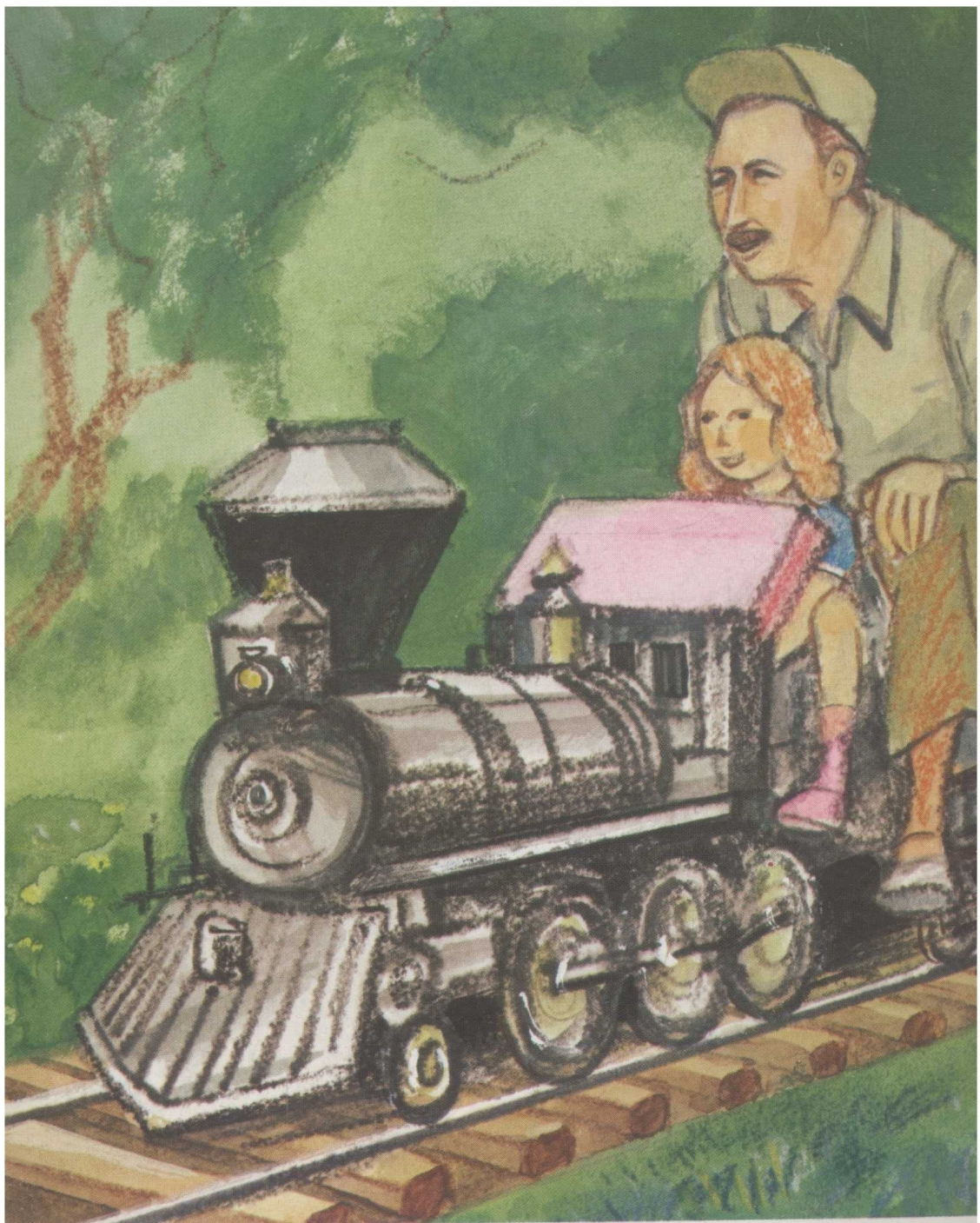


とウォルトはとつぜんひらめいたのです。



かんがえあぐねていたウォルトの頭^{かまなか}の中で、ごそごそと何^{なに}かが動^{うご}きました。それはねずみです。「そうだマウスがいいかもしれない。」新^{あら}しいまんがの主人^{しゅじんこう}公にはねずみがいい、





新しい家を建てると、パパは八分の一のもけいの汽車を
走らせました。ときおり、それにまたがって乗りながら、
満足そうでした。



ウォルトもスタジオの^{しごと}の仕事の^{あい}間をみると、^{つま}妻のリリアンをつれてよくディズニーランドにいきます。

みなさんへ

その少年は、まだ小さいとき、自分でも気がつかないで、家の白いかべにむかってぶたの絵をかいていました。パパにはおしりをたたかれましたが、でもママは、笑って、スケッチブックと色えんぴつを買ってくれました。

少年は、それで、お医者さんに馬の絵をかいてやりました。お医者さんはよろこんで、少年の手におれいをやりました。少年は、あまりのうれしさに、思わずふわりとした気持ちになりました。少年の心には、そのとき、大きなゆめがやどったようです。少年は、そのゆめをおいかけて、ひたむきに走り出しました。

何度も何度も、ころびました。もうだめだと思ったこともあります。でも少年は、そのたびに、ひるまずにおきあがって走りました。一つのゴールに達すると、またつぎのゴールをめざして走っていききました。

その姿を見ると、人間がせいっぱい生きるということはほんとにすばらしいことだという思いがひしひしと胸にせまります。

岡本 文良

もくじ

ゆめを見る少年

..... 15

少女のおどろき

..... 15

父と母と子

..... 21

新聞配達

..... 28

なんでもする心

..... 36

独立するわかも

..... 42

苦しいたたかい

..... 51

スタート

..... 51

わかい社長さん

..... 57

やぶれたゆめ

..... 64

売れたアリス

..... 69

美しい心

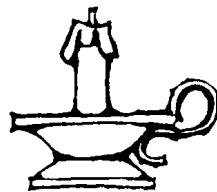
..... 76

落としあな

..... 85

新 ^{あた} しいもの ^ら に ^い ど ^む む	93
音 ^{おと} を ^だ 出 ^え す映 ^え 画 ^が	93
つ ^は か ^れ は ^て て	101
人 ^{ひと} を ^そ だ ^て て ^{よう}	107
み ^み ご ^ご と ^な 森 ^{もり} の朝 ^{あさ}	112
大 ^{だい} ぼ ^う う ^{けん}	118
勝 ^{しょう} 利 ^り の ^{とき}	124
な ^な し ^し と ^と げ ^げ た ^た ゆ ^ゆ め	133
二 ^に 度 ^ど め ^め の ^{たい} 大 ^{せん} 戦 ^{せん}	133
建 ^た て ^て な ^な お ^お し	140
す ^す て ^て き ^き な ^な パ ^パ	147
ゆ ^ゆ め ^め の ^{くに} 国 ^{くに}	155
か ^か が ^が や ^や か ^か しい ^{みち} 道 ^{みち}	161
あ ^あ と ^と が ^が き	170
年 ^{ねん} 表 ^{ひょう}	174

ゆめを見る少年^{み しょうねん}



少女のおどろき^{しょうじょ}

ダイアンは、五つ^{いつ}のとき、パパにつれられてその映画^{えいが}を見^みにいきました。
「パパ、何^{なん}という映画^{えいが}なの？」

ダイアンがたずねると、パパはにっこり笑^{わら}って答^{こた}えました。